

### 第3回

# ツブキ先生の虫のつぶやき

## アカトンボの季節は秋？

津吹 卓

秋です。アカトンボの季節ですね。今年は、もう会えましたか。え？ まだですって？ では、会える場所をお教えしましょう。一つは電線です。上の方を見てください。視線は正面ではなく、上なのです。うまくいけば、たくさんの同じ方向を向いたトンボが電線に並んで止まっているのを見ることができます。また、ちょっとした丘陵地の木々の枝先や、田んぼなどに立っている樺の先も良いですね。ただ、東北地方などでは最近めっきり少なく

なったという話も聞いています。稲の作り方が変わり、そのためではないかとも言われています。では、アカトンボについて見ていきましょう。

### 第一問 アカトンボってどんなトンボ？

もちろん「体が赤いトンボ」？ でしょうか。実は「アカトンボ」という名前のトンボはいません。答えは体が赤いトンボのうちの数十種類をアカトンボ類（アカネ類）と呼んでいるのです。僕

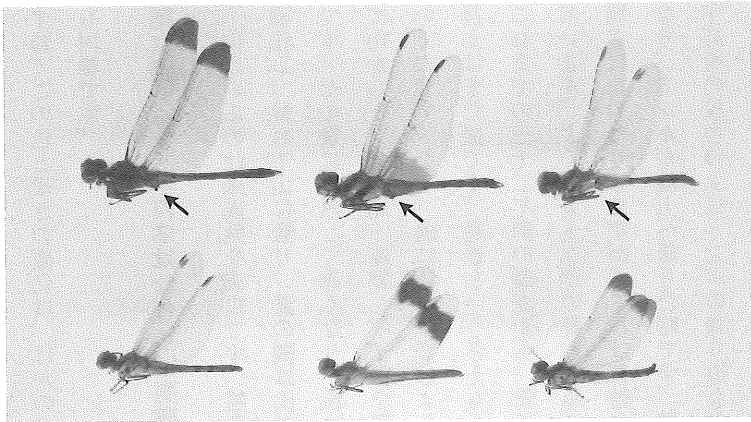
の住んでいる東京の郊外（日野市）でも、現在は七種類が普通に見られます。特に多いアキアカネはアカトンボの代表で、マユタテアカネ・ネキトンボ・ミヤマアカネなども結構見られます。ノシメトンボやナツアカネもいます（写真）。

## 第二問 雄と雌の違いは？

最もわかりやすい答えは、雄の腹部の基にある突起です（写真矢印部分）。精子をためる袋なので、子どもたちには「オチンチン」と言っています。子どもはニコツとしてすぐに納得するようです。

## 第三問 アカトンボって本当に秋の虫？

夏の高原に、体がオレンジ色のトンボがたくさんいるのを見たことがあります。あまり機敏ではないので、手でも採れたりします。これもアキアカネです。オレンジ色でも「赤トンボ」なのです。答え



▲写真：アカトンボの仲間の羽の模様の違い  
 上段（雄）左：ノシメトンボ（羽先が茶色・大型）中：ネキトンボ（羽の根本が黄色）  
 右：アキアカネ（模様無し・大型）  
 下段（雌）左：ナツアカネ（模様無し・小型）中：ミヤマアカネ（羽の中間が茶色）  
 右：マユタテアカネ（羽先が茶色・小型 模様の無いものもある）

は夏の始めには、もう親になつて居るのです。

ここからは、アキアカネを中心に話を進めます。

#### 第四問 アキアカネ(親)は

何日くらい生きて居る?

トンボの幼虫はヤゴで、池や水田にいます。東京では、アキアカネは六月下旬に親になり、十二月の始めまで長生きするものも見られます。答えは約半年です。

#### 第五問 なぜオレンジと赤いトンボが居る?

ヤゴから羽化して親になつても、まだ性的に成熟していません。つまり交尾して卵を生むことはできません。答えは未成熟の時はオレンジで、成熟してくると体の色が赤に変わってくるからです。特に、雄が顕著です。また、若いうちは体も柔らかくで弱く、成熟するにつれて硬くしつかりしてくるので

す。赤ちゃんと大人の「ほほの違い」のイメージです。この色と硬さの変化は、ほかのアカトンボでも同様です。

#### 第六問 アキアカネはなぜ夏は高原に居る?

山に居るのは未成熟な成虫です。答えは、初夏に羽化し、群れで山に登り、夏の間は山で暮らすからです。その後成熟して赤くなり、秋に群れになつて山から下り、交尾・産卵し、子孫を残して死んでいくのです。なぜ、山に登るのでしょうか。実は、答えはまだ謎です。避暑という考えもありますが、これまでの三十二年間の調査から、僕は違うと思つて居ます。よくアカトンボの群れが急に街に現れて騒ぎになったりしますが、これは移動の途中で夜になり、トンボが地上へ降りた時です。勤務先の十文字高校の校舎の上はトンボの通り道なので、たまに学校がトンボであふれることがあります。同じアカ

トンボでも、羽化した場所からすぐ近くに移動する種と、平地から高原にまで移動する種があり、アカネは後者の典型的な種で、ノシメトンボも一部は長距離移動をします。

### 第七問 初夏から晩秋まで気温の変化は大きいけれど 体調は平気？

暑いところにいるトンボは高温に耐え、また体温が上がるのを押さえる能力を発達させているようです。秋に気温が低くなると、この能力は不要になります。答えは環境に合わせて体温調節ができるようです。トンボは時々、面白い格好をします。それは「逆立ち」です。



### 第八問 アカトンボはなぜ逆立ちをするのか？

アカトンボを見ると、朝な

ど、まだ気温が低い時は日光浴をして体を温めています。昼間、日向で日が当たると体温も上がり、トンボも暑くなってきました。日陰に入ればいいのですが、できれば動きたくないようです。そんな時は、急に腹部を立てて逆立ち（上のカット参照）をします。腹部の先は太陽の方を向いています。つまり、普通に止まっている姿勢から逆立ちをしようと、太陽に照らされる部分が体全体から腹部の先だけに変わります。測定してみると、逆立ちをした瞬間に体温がスーッと数度下がります。答えは暑いので体温を下げるためです。ものぐさ(?)なのは人もトンボも同じですね。

成虫になって長い間生きるのは、アカトンボにとって大変なことのように、苦勞して一生懸命に生きています。

(十文字中学・高等学校〈理科/生物〉)

十文字学園女子大学児童幼児教育学科非常勤講師)